

◆第18定例会「信金合併と地域経済」◆

地域の金が地域で回ることが大切!

～阿部正巳さん(京都北都信用金庫従業員組合執行委員長)～

★「まい研」の第18回定例会は、4月22日(火)に京都北都信用金庫の阿部正巳さんを講師に迎えて、中総合会館で開催されました。阿部さんは北都信金の従業員組合の執行委員長ということで、話は02年1月の五信金(京都北都、福知山、綾部、舞鶴、東舞鶴)合併のときの様子から始まりました。職員の皆さんには「寝耳に水」の出来事で、仕事はどうなるのか、顧客はどうなるのか、自分たちの労働条件は…?ということで急きょ組合を結成して猛勉強の日々が始まったのだとか。組合を結成してデメリットはゼロ、メリットは無数にあったということで多くの成果があったようですが、職員数は1200人から800人に減らされ子会社のパート職員で補われているとのこと。仕事は大変、サービスは低下という話を聞くと、いずこも同じだなあと溜め息が出てしまいました。



★そうした経緯をレポートされた資料のほかに、信用金庫協会の概要説明資料や信金から出されている地域経済レポート、ディスクロージャー(経営説明書)その他たくさんの資料を出していただき、次々と目を通していき、あいだに頭がくらくらしてくるほどの盛りだくさんの内容でした。信用金庫の理念は株主に対してではなく地域の事業主や住民の利益を優先するというだけあって、地域経済レポートでは卸売業や小売業の事業所数・販売額の市町村別の推移、公共工事請負額の推移、建築確認申請、有効求人倍率、手形交換などの指標を使って地域の経済状況がとらえられていることを教えてもらいました。景気の落ち込みや求人の低下などで地域が疲弊すると信金も苦勞するのだなあということが漠然とわかってきましたが、逆に、阿部

さんは「地域の金が地域で回ることが大切なんです」と言って、地場の企業や商店、住民が元気になる方途を模索しておられることが強く感じられました。

(裏面に続く)

「まい研」の第19回定例会の案内

1. 日時 **6月23日(火)19:00~21:00**
2. ゲスト **上野陽子さん(元CIC舞鶴リセプションセンター勤務員)**
3. テーマ **(仮称)「連合軍占領下の舞鶴港と引揚」**
4. 場所 **中総合会館4F研修室1**

(表面から)

★地域経済というテーマは参加者にとっても身近で切実な問題でしたので、その後の質疑時間ではほとんどフリートークになってしまい、舞鶴市内のコンビニの乱立やスーパーの競争、市外業者の進出のこと、街づくりのアイデアや批評などとりとめもなく議論が噴出して、やはり頭がくらくらしてきました。何らかの議論するときにはブレーストーミングといってまずは何でも出していくという手法があるそうですが、それをテーマに沿って整理していくという「まとめ」の技術を身に付けていくことが、「まい研」会員の課題かなあと感じました。

「かまぼこ調査隊」の提言が原動力で「かまぼこ知ろう館」がオープン!

▼昨年、「まい研」の「行け行け!かまぼこ調査隊」が舞鶴の特産品のかまぼこの魅力を探る地域調査を実施し、その中から「地域産品である舞鶴かまぼこのことがわかる施設」を作ってほしいとの提言をしました。

▼このことが大きな原動力となって、舞鶴かまぼこ協同組合は、JR西舞鶴駅前の京都交通バス案内所の一角を改装し「舞鶴かまぼこ知ろう館」がオープンしました。総事業費は約300万円で、京都府の地域力再生プロジェクト支援事業で140万円の補助を受けています。

▼「知ろう館」は、舞鶴でのかまぼこ業の発祥、製造で使った石臼などの道具、生すり身をふんだんに使った独自の作り方などを資料やパネルで紹介しています。館内は明るく入りやすい、きれいなで「舞鶴かまぼこ」が一目でわかります。ぜひ訪ねてください。



財政分析勉強会で舞鶴市の「歳入」について大いに学ぶ!

▼第15回財政分析勉強会が4月21日に開催され、「まい研」と「スイッチ」のメンバーが約20名参加しました。

▼「スイッチ」のメンバーから、四大財源(地方税、地方交付税、国庫支出金、地方債)と財源の区分(一般財源と特定財源、自主財源と依存財源)、自治体が自ら集める地方税などの「歳入」について報告がありました。

▼ディスカッションでは、「固定資産税で増えた税収約40億円は、どこに消えたのか」、「単に数字や数値を見るのではなく、生活苦の中でも税を支払っている市民がいる。数字のうしろにあることを学んでいきたい。」などの声が出されました。

第16回財政分析勉強会の案内

1. 日時 5月19日(火)19:00~21:00
2. 場所 東コミセン・会議室(総合文化会館)
3. 内容 目的別歳出(舞鶴市の決算カードより)



